



松本 弾 (まつもと だん)

活断層・地震研究センター (海溝型地震履歴研究チーム)

4月より活断層・地震研究センター 海溝型地震履歴研究チームに任期付研究員として配属されました。松本 弾と申します。昨年度までの4年間、地質情報研究部門に特別研究員として所属していましたので、すでに私の顔を見飽きたという方も多いかもしれませんが、ご寛恕いただければと思います。

専門は堆積学で、修士課程までは田辺層群を対象に堆積過程に関する研究を行っておりました。博士課程では2004年のインド洋津波による津波堆積物の研究を行い、2008年に京都大学大学院で学位を取得しました。産総研に来てからは、音波探査による沿岸域の地質構造解析などの研究を行ってまいりました。

今年度からは縁あって再び津波堆積物の研究を行うこととなります。現在は三重県を対象地域として、過去数千年間の古津波堆積物を地層から見出すことで津波発生履歴や規模を推定する研究を行っています。将来的には産総研で行われている幅広い研究に目を向け、自分の研究を発展させていきたいと考えております。また研究活動だけではなく、所内のサ



ークル(地質調査所野球部・山の会)活動にも勤しみ、産総研生活を充実させていきたいと思っております。厳しくも温かいご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



浅沼 宏 (あさぬま ひろし)

地圏資源環境研究部門

2013年4月より地圏資源環境研究部門に着任しました浅沼 宏と申します。私は、東北大学で学位を取得し、その後、東北大学の教員を経て産総研へ入所いたしました。

これまで私は主として地熱貯留層のモニタリングに関する研究を行ってきました。地熱開発においては、天然状態で高い透水性を有する天然亀裂、あるいは注水などの行為に応答した亀裂の位置や形状を把握することが重要です。このために、貯留層から発生する微小地震(AE)を用いたモニタリング技術の実用化を目指し、センサ、計測システムの開発から、解析手法の導出に至る一連の研究を行ってきました。また、近年では、超高温領域での地熱開発に関する研究も行っています。

私は本年度設立予定の福島再生可能エネルギー研究所において、地熱エネルギー導入の阻害要因のうち、科学的アプローチにより解決が見込める課題、例えば、誘発地震抑制・リスク評価法の導出、温泉と地熱発電の関連性の解明、高透水性



亀裂の高分解能イメージング手法の開発を中心に研究を行い、地熱エネルギー利用の早期拡大に貢献したいと考えています。今後とも御指導、御鞭撻の程、よろしく願いいたします。



石原 武志 (いしはら たけし)

地質情報研究部門 (平野地質研究グループ)

地質情報研究部門、平野地質研究グループ特別研究員の石原武志と申します。2012年9月に東京大学大学院新領域創成科学研究科で学位を取得後、11月よりテクニカルスタッフとして同グループに所属し、2013年4月より現職です。早稲田大学の自然地理学教室で地形学を学んだことがきっかけで、平野の地形発達に興味を持つようになりました。大学院の研究では、河口部を共有する関東平野中央部の2つの沖積低地を対象に、ボーリングコアとボーリング柱状図資料の解析から沖積層層序や基底地形分布を復元し、それらの形成過程に海面変動、地殻変動、河川がどのように寄与してきたのかを検討しました。

平野地質研究グループでは、これまでの研究で培ってきたノウハウを活かして、沿岸平野域の地下地質を検討しています。また、更新統の地層の分布や活構造など、新たに学ぶべきことも多く、野外調査などを通じて勉強中です。



今後、多分野の方々から積極的に知識を吸収し、研究者としての幅を広げていきたいと思ひます。ご指導よろしくお願ひいたします。



西田 梢 (にしだ こずえ)

地質情報研究部門 (海洋環境地質研究グループ)

地質情報研究部門海洋環境地質研究グループ 産総研特別研究員の西田 梢です。2013年3月に東京大学大学院理学系研究科の博士課程を修了し、4月より着任いたしました。専門は古生物学と同位体地球化学で、海洋環境変動の生物石灰化への影響について、現生および化石の生物骨格の結晶形成や化学組成から検証を行っています。昨年度より取り組んでいる生物飼育実験では、地球温暖化・海洋酸性化をキーワードに研究を行っています。人為起源の二酸化炭素放出により、地球規模での温暖化と海洋のpH低下による海洋酸性化の進行が危惧されております。私の研究では、このような温度や酸性化への生物石灰化への影響の評価や生物骨格の新たな環境指標の探求を行っています。

産総研にはじめてきたのは、まだ研究を始める前の学部3年生のときでした。学部4年生のとき博物館実習で地質標本館にお世話になり、さらにその後、約5年間技術研修生として分析に通うようになりました。さくら館に幾度も泊まったのはいい思い出です。研究者として成長するため



に、私を温かく支えて下さった産総研で今度は特別研究員として研究に励み、貢献します！



勝部 亜矢 (かつべ あや)

地質情報研究部門 (長期変動研究グループ)

地質情報研究部門長期変動研究グループに2013年4月1日付けで特別研究員として配属されました。勝部亜矢です。2012年9月に広島大学で学位を取得後、同年10月から日本学術振興会特別研究員(PD)として産総研に所属し、東アジア地域の構造発達史解明を目的として古い地質体について地質学的に研究をしていました。特に、環日本海地域中・古生代堆積層に含まれる碎屑性ジルコン年代特徴の検討と広域対比を行いました。

現在は、長期間断層活動の想定場としての地質断層の認定および再活動の評価研究に取り組んでおります。日本列島の構造発達史を通して作られた地質断層の活動史の検討から、希頻度災害のリスク評価に資することのできる情報の提供に努めたいと思っております。地質学のメッカである産総研において、知識を深めると共に、多様な研究分野の方々との交流を通して自分の研究を社会と科学にどう還元していただけるか



考える機会としたいです。アウトリーチ活動にも積極的に取り組んでおり、みなさまといういろいろな場面で関わらせていただければと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



藤井 孝志 (ふじい たかし)

地圏資源環境研究部門 (CO₂ 地中貯留研究グループ)

本年度4月より任期付研究員として、地圏資源環境研究部門CO₂地中貯留研究グループに配属されました藤井孝志と申します。出身は、長野県上田市の田舎です。趣味は、夏はジョギング、テニス、自転車、冬はウィンタースポーツなどです。加えて、鉄道模型、プラモデル作り、映画鑑賞なども好きです。性格は、人懐っこいです。

研究履歴について簡単に紹介させていただきます。私は、秋田大学の地球資源学部(旧鉱山学部)の地球資源学科を卒業後、同大学院の修士課程を経て東北大学大学院環境科学研究科にて学位を取得し、ポスドクを経験した後、2011年10月に産総研に異動してまいりました。私の専門は資源工学であり、研究という世界に飛び込んで以来、現在までのおよそ12年間、地中にCO₂を封じ込める研究を一貫して行ってまいりました。

学部・修士課程では石炭層を、博士課程・ポスドクでは帯水層を対象に、CO₂吸着量の測定を行い、石炭および岩石に対してCO₂がどの程度貯留されるのかを定量的に明らかにしてきました。現在は、引き続き岩石を対象にCO₂地中貯留に係る研究を行っており、これまでの研究では不十分であった「地質」をより深く理解した上でのCO₂地中貯留の安全性について考える研



究を行っております。

今後は、そのような技術や経験等を生かし、CO₂地中貯留のみならず、さまざまな研究分野との融合を図り、幅広い研究を展開していきたいと考えております。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、何卒、宜しくお願申し上げます。